

# 耐震改修計画評価業務（名古屋委員会）実施細則

平成25年9月3日

公益社団法人ロングライフビル推進協会

## 1 事前申込

### 1.1 事前申込

公益社団法人ロングライフビル推進協会（以下「協会」という。）に耐震改修計画評価委員会（名古屋委員会）の評価報告書に基づく耐震改修計画の評価（以下「評価」という。）の依頼を行う者（以下「依頼者」という。）は、評価の申込みに先だって、その後の手続きを円滑に進めるため、評価対象の別、評価の対象となる建築物の用途・構造・構造・延べ面積のほか以下の事項を明らかにした「耐震改修計画評価 事前申込書（様式1）」（以下「事前申込書」という。）により事前申込を行うものとする。この場合、評価の対象となる建築物は棟毎とし、エキスパンション・ジョイントによって分割されているときは別棟とみなす。

#### (1) 評価料支払者（依頼者と異なる場合）

評価料の支払者が評価の依頼者と異なる場合は、評価料支払者の名称等を明記するとともに押印すること。

#### (2) 評価書発行希望時期

### 1.2 所管行政庁との対応

依頼者は、耐震改修計画に関して所管行政庁と関係法令にかかる確認を行うことが必要な場合は、事前申込みに先立って、原則として、所要の対応を行っておくものとする。

### 1.3 受付審査委員会の開催日程の通知

事務局は、事前申込を受けた場合、4の受付審査委員会の開催の日程を設定し、2.1の評価申込を行うべき時期、評価料の額及び納付時期とともに依頼者に通知する。

## 2 評価の申込み

### 2.1 評価の申込み

依頼者は、1.3で事務局から通知された評価申込を行うべき時期までに1.3の評価料の納付を行った上で、「耐震改修評価申込書（様式-3）」（以下「申込書」という。）により申込みを行い、審査に必要な図書で本細則の別表に定める構成によるもの（以下「評価用図書」という。）を提出する。

2.2 事務局は、提出された評価用図書等に不備・不足があると判断した場合、追加又は修正を求められることができる。

2.3 事務局は、申込書の内容を確認して受理した後、評価スケジュールを調整し、依頼者に通知する。

### 3. 評定にかかる審議

評定にかかる審議は、受付審査委員会における審議（1回）、部会における審議（原則1回）、最終審査委員会における審議（1回）を行うこととする。

### 4 受付審査委員会

- 4.1 委員会は、2.1の申込を受けた場合は、受付審査委員会を開催し、概要のヒアリングを行い、大まかな診断方法の確認、議論の要点等の確認を行い、部会担当委員を決定する。
- 4.2 依頼者は、受付審査委員会に出席し、評定の申込概要について説明を行う。
- 4.3 依頼者は、受付審査委員会における指摘事項等については、後日、「指摘事項回答書（様式-4）」に指摘事項と対応策を記載し、部会にて回答する。
- 4.4 委員長は、受付審査委員会において、申込み評定対象を担当する学識者委員2名、実務者委員2名（以下「部会委員」という。）を選任する。

### 5 部会

- 5.1 部会は、「建築物の耐震改修の促進に関する法律」（平成7年 法律第123号）第4条に基づく平成18年国土交通省告示第184号（以下「告示」という。）の別添の建築物の耐震診断及び耐震改修の実施について技術上の指針となるべき事項（以下「指針」という）の第2に定める基準に適合しているか否かを確認する。
- 5.2 部会は原則1回の開催とする。
- 5.3 依頼者は、受付審査委員会終了後、部会委員に評定用図書を送付する。
- 5.4 部会委員（実務者委員）は、依頼者から送付された評定用図書の内容について審査し、質疑があれば事務局を通じて依頼者へ通知する。
- 5.5 依頼者は、部会に出席し、質疑について回答する。
- 5.6 部会にて、最終審査委員会へ部会の審査結果を報告する学識経験者委員（以下「担当部会委員」という。）を決める。
- 5.7 担当部会委員は、5.1の確認を行ったときは、部会審査の結果として「部会報告書」を作成する。

### 6 最終審査委員会

- 6.1 最終審査委員会において、担当部会委員は部会審査の結果を報告する。
- 6.2 担当部会委員は、最終審査委員会において指摘事項等があった場合は、その内容を依頼者に通知し、依頼者は部会における指摘事項等への対応と同様に指摘事項回答書に記載し、必要な資料を添えて担当部会委員へ提出する。
- 6.3 委員会での指摘事項にかかる修正等の確認は担当部会委員が行い、確認結果を事務局へ報告する。
- 6.4 依頼者は、最終審査委員会後の担当部会委員による修正等の確認を得た後に、評定用図書（最終版）を事務局へ送付する。
- 6.5 最終審査委員会は、指針の第2の基準に適合するか否かを確認した場合は、評定報告書を作成

する。

## 7 評定委員会による報告

委員会は、委員会にて審議が終了した場合、審議結果について評定報告書を取りまとめ、協会会長に報告する。

## 8 評定書の交付

協会会長は、提出された評定報告書（評定用図書含む）に基づき、9. の評定料の納付を確認のうえ、評定書を発行する。

## 9. 評定料

### 9.1. 評定料の額

- 1) 評定料は、受付審査委員会、部会及び最終審査委員会において原則各1回を開催した場合、申込物件（棟単位）の延べ面積の区分に応じて下表に示す通りとする。

評定料

延 べ 面 積	料金（税抜）
3,000㎡以下	250,000円
3,000㎡を超え5,000㎡以下	300,000円
5,000㎡を超え40,000㎡以下	500,000円
40,000㎡を超えるもの	600,000円

- 2) 部会審査等が書類不足等で内容確認が規定回数内で終了できず、追加して部会等を開催する必要がある場合は、部会等を1回追加するごとに、1物件あたり125,000円（税抜）を1) の評定料に加算する。
- 3) その他特別な事情がある場合は、事情に応じて金額を増減額することができる。

### 9.2. 評定料の納入等

依頼者は、評定料を1.3で事務局が指定する期日までに、指定口座に振り込むものとする。

## 10. 申込みの取下げ

- 1) 依頼者の都合により、審査中に申込みを取下げ場合は、取下げ理由を明記した「評定申込取下届（様式5）」を提出する。
- 2) 依頼者は、申込みを取下げ場合は、その時期に応じて、9.1 1) に定める評定料のうち次の額を負担するものとし、差額については精算するものとする。ただし、9.1 2) の追加の評定料については、この差額精算の対象外とする。

①評定申込後、受付審査委員会開催日前日までに申込みを取下げの場合 基準料金の 20%

②受付審査委員会開催日以降、評定書発行前までに申込みを取下げの場合 基準料金の 90%

## 11 当協会で評定を行った改修計画の変更にかかる評定の特例

- 11.1 当協会で評定を行った耐震改修計画が変更された場合の評定については、委員長が変更前の改修計画の評定の審議を活かして変更後の耐震改修計画の審議を行うことができると判断したときは、適宜、部会又は委員会の全部又は一部の省略した審議を行うことができる。
- 11.2 11.1の場合の評定料は、9.1 1) に定める評定料から事前審査や委員会の開催状況等に応じて減額するものとする。

## 12 その他

その他特別な事情が生じた場合の対応のほか、必要な事項については別途定めるものとする。

### 附 則

- 1 この細則は、平成25年10月1日から施行する。
- 2 この細則の施行にあわせて、「耐震改修評定業務実施細則」（平成14年11月18日施行、決裁番号524号）は廃止する。

### 附則

- 1 この細則は、平成26年4月30日から施行する。

## 耐震改修計画評定事前申込書

公益社団法人 ロングライフビル推進協会 様

下記の建築物の耐震改修計画について評定を申込みします。

平成 年 月 日

住所  
事前申込者 名称 印

記

建築物の概要	名称					
	所在地					
	用途		構造		階数	
	竣工年度		延床面積		形状	
耐震改修の概要	耐震診断の内容					
		診断方法		判定値	$I_s \geq$	
	耐震補強等の内容					
		診断方法		判定値	$I_s \geq$	
担当者	所属・役職		氏名			
	連絡先	住所 TEL FAX E-mail				

評定書発行先	* 評定書発行先と事前申込者が違う場合にご記載ください。
評定料請求先	* 評定料請求先と事前申込者が違う場合は、評定料請求先とその代表者名を記載し、代表社印を押印してください。

備考
----

評定書の発行希望期日等	
評定申込予定年月	平成 年 月頃
評定書発行希望期日	平成 年 月頃

事務局記載欄

事前受付日等	平成 年 月 日
受付番号	
担当	

## 耐震改修計画評定委員会開催等通知書

殿

平成 年 月 日

公益社団法人 ロングライフビル推進協会  
事 務 局

平成 年 月 日 に事前申込のあった建物の耐震改修計画の評定について、以下の日程にて受付審査委員会(以下「委員会」という)を開催いたします。つきましては、耐震改修計画評定申込書及び耐震改修関係図書を、委員会開催日の1週間前迄に、BELCA事務局までご郵送ください。

また、評定料(申込金)については、別添のとおり請求書をご送付いたしますので、委員会開催日の1週間前迄にお振り込みください。

なお、委員会開催日の1週間前までに入金を確認できない場合は、委員会を開催しない場合がありますのでご注意ください。

### 記

#### 1. 受付審査委員会開催日程

開催日：平成 年 月 日

場 所：

#### 2. 評定に要する資料として下記の書類を委員会1週間前迄にご準備ください

1. 耐震改修計画評定申込書
2. 評定用図書

\*また、受付審査委員会には、以下の資料を委員会会場にお持ちください。

#### 受付審査委員会用資料

- |                     |         |
|---------------------|---------|
| ①部会担当委員用資料(評定用図書一式) | 4部      |
| ②委員会委員用資料(評定用図書の抜粋) | 12部(予定) |

## 耐震改修計画評定申込書

公益社団法人 ロングライフビル推進協会

平成 年 月 日

会長 山内 隆司 殿

耐震改修評定業務実施要領第3条に基づき、下記の建物の耐震改修計画の評定を申込みします。

住所：〒

申込者： \_\_\_\_\_

印

評定書発行先	評定書発行先と申込者が違う場合はご記載ください。
評定料 請求先	請求先と申込者が違う場合は、請求先代表印を押印のうえ連絡先等ご記載ください。 印

建 物 概 要	建物の名称				
	建物の所在地				
	改修計画設計者 (住所・所属、氏名)	〒			
	耐震診断者 (住所・所属、氏名)	〒			
	履歴等	建築確認年月日	昭和 年 月 日	確認済証 の有無	1) あり 2) 無し 3) 不明 (昭和 年着手)
		検査済証	昭和 年 月 日		
		竣工年月日	昭和 年 月 日		
		設計者			
		施工者			
	建物の用途 規模	用途 ( ) 階数 地上 階、地下 階、塔屋 階	建築面積 m <sup>2</sup>	延べ面積 m <sup>2</sup>	
建物の構造	1) RC造 2) S造 3) 一部S造 4) SRC造				
	5) その他 ( )				
準拠した耐震診断の 方法、目標とする指標	準拠した耐震診断の方法				
	目標耐震指標値	$C_{TU} \cdot S_D \geq$	$I_{so} =$		
耐震改修箇所	耐震壁補強 (・RC壁新設 ・添え壁 ・ブレース新設 ・基礎補強)				
	局 部 補 強 (・根巻 ・カーボン巻 水平ブレース ・アカーボルト )				
	重 量 軽 減 (・防水押え撤去 ・塔屋撤去 ・ ( ) 撤去)				
	その他 ( )				

※ 受 付 欄	※ 備 考

※印欄には記入しないで下さい。

## 耐震改修計画方針説明書

1 改修設計方針（耐震診断で判明した構造弱所及び改修方法の考え方を記入する。）

2 基礎、地盤についてのコメント

3 鉄骨補強の場合

既設コンクリートラーメンと鉄骨との強度の分担と剛性についてのバランス、及び剛性率に対するコメント



4 工事施工精度確保のための方策

5 その他特にコメントすべき事項（既設にエキスパンションのある場合の評価、極脆性柱解消のためのスリットの工法等、改修設計で特殊なものがある場合記入する。）

6 塔屋など屋上突出物の取扱いについて

### 耐震改修計画評定 委員会 指摘事項回答書(受付審査)

日 時	平成 年 月 日	委 員	(省略)
場 所		設計者 (説明者)	企 業 名 (説明者氏名)
物件名			
指摘事項等	回答・処置	評定用図書 該当箇所	

(名古屋委員会)

## 耐震改修計画評定 部会・指摘事項回答書(事前質疑)

日 時	平成 年 月 日	委 員	
場 所		設計者 (説明者)	
物件名			
指摘事項等	回答・処置	評定用図書 該当箇所	

(名古屋委員会)

## 耐震改修計画評定 部会・指摘事項回答書

日 時	平成 年 月 日	委 員	
場 所		設計者 (説明者)	
物件名			
指摘事項等	回答・処置	評定用図書 該当箇所	

(名古屋委員会)

## 耐震改修計画評定 委員会指摘事項回答書(最終審査委員会)

日 時	平成 年 月 日	委 員	(省略)
場 所		設計者 (説明者)	企 業 名 (説明者氏名)
物件名			
指摘事項等	回答・処置	評定用図書 該当箇所	

## 評定申込取下届

下記の申込みについて、都合により取下げたいので、届け出ます。

公益社団法人ロングライフビル推進協会  
会 長 様

平成 年 月 日

申込者  
住所  
氏名

印

### 記

取り下げ理由

申込の概要

1. 申込年月日 平成 年 月 日

2. 建築物の位置

3. 建築物の概要

① 用 途

② 延べ面積 , m<sup>2</sup>

③ その他事項 (建物名称)

日付：(最終審査日記載)

## 耐震改修計画評定部会報告書

部会審査日：平成25年〇月〇日  
開催場所：  
担当委員：学識者委員 〇〇委員、〇〇委員  
実務者委員 〇〇委員、〇〇委員  
説明者：  
担当案件名：〇〇学校〇〇棟  
所在地：〇〇県××市△△区4-1-10

### 1. 建物概要

規模構造：鉄筋コンクリート造、地上〇階、塔屋〇階、延床面積 ●●●m<sup>2</sup>  
建築年月：昭和〇〇年竣工  
構造形式：X方向 ラーメン架構、Y方向 ラーメン架構+RC耐震壁  
基礎形式：〇〇基礎  
採用コンクリート強度：〇〇N/mm<sup>2</sup>  
(設計基準強度〇〇N/mm<sup>2</sup>、圧縮試験強度〇〇N/mm<sup>2</sup>)

鉄筋：柱と梁の主筋 〇〇  
帯筋 〇-〇φ, @〇〇〇

現地調査結果：

不同沈下によるひび割れ 有、無

そのほかひび割れ 有、無

コンクリートの中酸化状況 (〇〇mm)、

経年指標 T = ●●●

構造的な特徴等：

<建物に関する所見>

### 2. 耐震診断の方法

1) 診断基準：

2) 診断法：

3) 耐震指標： $I_s$ 、構造耐震判定指標： $I_{S0}$ 、 $C_{TU} \cdot S_D \geq$

### 3. 現状の診断結果

		1階	2階	3階	4階	5階
X方向	Is					
	$C_{TU} \cdot S_D$					
Y方向	Is					
	$C_{TU} \cdot S_D$					

<所見>

### 4. 耐震改修の方法

### 5. 改修後の耐震性能

		1階	2階	3階	4階	5階
X方向	Is					
	$C_{TU} \cdot S_D$					
Y方向	Is					
	$C_{TU} \cdot S_D$					

<所見>

### 6. 審議経過

### 7. 改修計画の妥当性

以上により、本案件の耐震改修計画は妥当である。



BELCA-TKNH-\*\*\*\*\*

## 耐震改修計画評定委員長確認

平成 年 月 日

公益社団法人 ロングライフビル推進協会  
事務局

本委員会は、下記の建築物の耐震改修計画について、慎重審議の結果、妥当であると評定します。

委員長 確認	
-----------	--

### 記

建 物 名			
所 在 地			
建物規模等	〇〇造	塔屋 階、地上 階	m <sup>2</sup>
設 計 者			
部会審査概要 (*、*、*)	<p>1. 建物概要</p> <p>規模構造：鉄筋コンクリート造、地上〇階、塔屋〇階、延床面積 ●●●m<sup>2</sup> 建築年月：昭和〇〇年竣工 構造形式：X方向 ラーメン架構、Y方向 ラーメン架構+RC耐震壁 基礎形式：〇〇基礎 採用コンクリート強度：〇〇N/mm<sup>2</sup> (設計基準強度〇〇N/mm<sup>2</sup>、圧縮試験強度〇〇N/mm<sup>2</sup>)</p> <p>鉄 筋：柱と梁の主筋 〇〇 帯筋 〇-〇φ, @〇〇〇</p> <p>現地調査結果： 不同沈下によるひび割れ 有、無 そのほかひび割れ 有、無 コンクリートの中性化状況 (〇〇mm)、 経年指標 T = ●●●</p> <p>構造的な特徴等：</p> <p>&lt;建物に関する所見&gt;</p> <p>2. 耐震診断の方法</p> <p>1) 診断基準： 2) 診 断 法： 3) 耐震指標：I<sub>s</sub>、構造耐震判定指標：I<sub>s0</sub>、 C<sub>TU</sub>・S<sub>D</sub> ≧</p>		

3. 現状の診断結果

		1階	2階	3階	4階	5階
X方向	I <sub>s</sub>					
	C <sub>TU</sub> ・S <sub>D</sub>					
Y方向	I <sub>s</sub>					
	C <sub>TU</sub> ・S <sub>D</sub>					

<所見>

4. 耐震改修の方法

5. 改修後の耐震性能

		1階	2階	3階	4階	5階
X方向	I <sub>s</sub>					
	C <sub>TU</sub> ・S <sub>D</sub>					
Y方向	I <sub>s</sub>					
	C <sub>TU</sub> ・S <sub>D</sub>					

<所見>

6. 審議経過

7. 改修計画の妥当性

以上により、本案件の耐震改修計画は妥当である。

部会担当委員

BELCA-TKNH-\*\*\*\*\*

# 耐震改修計画評定報告書

平成 年 月 日

公益社団法人 ロングライフビル推進協会  
会長 山内 隆司 殿

本委員会は、下記の建築物の耐震改修計画について、慎重審議の結果、妥当であると評定します。

耐震改修計画評定委員会  
(名古屋委員会)  
委員長

## 記

建 物 名			
所 在 地			
建物規模等	〇〇造	塔屋 階、地上 階	m <sup>2</sup>
設 計 者			
部会審査概要	<p>1. 建物概要</p> <p>規模構造：鉄筋コンクリート造、地上〇階、塔屋〇階、延床面積 ●●●m<sup>2</sup></p> <p>建築年月：昭和〇〇年竣工</p> <p>構造形式：X方向 ラーメン架構、Y方向 ラーメン架構+RC耐震壁</p> <p>基礎形式：〇〇基礎</p> <p>採用コンクリート強度：〇〇N/mm<sup>2</sup> (設計基準強度〇〇N/mm<sup>2</sup>、圧縮試験強度〇〇N/mm<sup>2</sup>)</p> <p>鉄筋：柱と梁の主筋 〇〇 帯筋 〇-〇φ, @〇〇〇</p> <p>現地調査結果：          不同沈下によるひび割れ 有、無          そのほかひび割れ 有、無          コンクリートの中性化状況 (〇〇mm)、          経年指標 T = ●●●</p> <p>構造的な特徴等：</p> <p>&lt;建物に関する所見&gt;</p> <p>2. 耐震診断の方法</p> <p>1) 診断基準：          2) 診断法：          3) 耐震指標：I<sub>s</sub>、構造耐震判定指標：I<sub>S0</sub>、 C<sub>TU</sub>・S<sub>D</sub> ≧</p>		

3. 現状の診断結果

		1階	2階	3階	4階	5階
X方向	I <sub>s</sub>					
	C <sub>TU</sub> ・S <sub>D</sub>					
Y方向	I <sub>s</sub>					
	C <sub>TU</sub> ・S <sub>D</sub>					

<所見>

4. 耐震改修の方法

5. 改修後の耐震性能

		1階	2階	3階	4階	5階
X方向	I <sub>s</sub>					
	C <sub>TU</sub> ・S <sub>D</sub>					
Y方向	I <sub>s</sub>					
	C <sub>TU</sub> ・S <sub>D</sub>					

<所見>

6. 審議経過

7. 改修計画の妥当性

以上により、本案件の耐震改修計画は妥当である。

# 評 定 書

平成 年 月 日

評 定 番 号 BELCA-TKN-\*\*\*\*\*号  
評定年月日 平成 年..月..日

\*\* \*\* 殿

公益社団法人 ロングライフビル推進協会  
会 長

平成 年 月 日付けで評定申込みのありました下記計画については、当協会の耐震改修計画評定委員会(名古屋委員会) (委員長： : 教授) における慎重審議の結果 (別添評定報告書BELCA-TKNH-\*\*\*\*\*)、妥当であると評定する。

## 記

1. 申込年月日 平成 年 月 日
2. 建築物の位置
3. 建築物の概要
  - ① 用 途
  - ② 延べ面積 , m<sup>2</sup>
  - ③ その他事項 (建物名称)





別表 評定用図書の構成

RC 造

項目	記載する事項等
<p>1 現況建物の概要</p> <p>1-1 建物概要</p> <p>1-2 使用材料</p> <p>1-3 設計図書の有無</p> <p>1-4 配置図・平面図・立面図</p> <p>2 現地調査結果の概要</p> <p>2-1 コンクリート圧縮強度試験の結果</p> <p>2-2 非構造部材の取り付け状況等</p> <p>2-3 その他</p> <p>3 現況建物の耐震診断</p> <p>3-1 診断方針とモデル化</p> <p>3-2 診断結果</p> <p>3-3 診断結果に対する所見</p> <p>3-4 経年指標</p> <p>3-5 形状指標</p> <p>3-6 建物崩壊形式記載図</p> <p>3-7 C-F 関係図</p> <p>3-8 第2種構造要素等の検討</p> <p>3-9 過去の診断結果と今回の結果との比較</p> <p>3-10 屋根床版の検討（省略可）</p> <p>(1) 屋根床版の応力計算</p> <p>(2) 屋根床版のIs値計算</p> <p>(3) ゾーニングIs値計算</p> <p>(4) 接合部詳細等の検討</p> <p>4 耐震改修</p> <p>4-1 補強の方針</p> <p>4-2 補強位置図</p> <p>4-3 補強後の耐震性能</p> <p>4-4 補強結果に対する所見</p> <p>4-5 建物崩壊形式記載図</p> <p>4-6 C-F 関係図</p> <p>4-7 第2種構造要素等の判定結果</p> <p>4-8 補強詳細図</p> <p>4-9 施工時の留意点</p> <p>5 その他 図面集</p> <p>既存図面</p> <p>現地調査結果の報告書</p> <p>電算資料</p>	<p>診断方針，仮定条件，モデル化，仮定荷重 志賀マップも記載</p> <p>偏心率や剛重比の値も明記 正・負加力とも：主要な柱と壁については，破壊形式・採用F値・耐力値を図中に記載。</p> <p>採用C, F値の箇所にマーク 必要に応じて下階壁抜けの検討結果を記載。 過去の診断結果がある場合は記載（別添でも可）。 屋根床版が鉄骨造の場合は3-9までは屋根床版を剛とする。「学校体育館の耐震診断基本方針2003版」に準拠</p> <p>(1)の結果，屋根床版が危険とされた時 (2)の結果，屋根床版のIsがIso未満の場合 屋根床版支持部などについて，必要に応じて記載</p> <p>補強後建物の耐震診断結果と所見</p> <p>正・負加力とも：主要な柱と壁については，破壊形式・採用F値・耐力値を図中に記載。</p> <p>診断結果を併記：採用C, F値の箇所にマーク 必要に応じて下階壁抜けや基礎の検討結果を記載。 補強部材の詳細図、仕様書等</p> <p>耐震診断のものと耐震改修計画のものは分ける</p>



S造の場合

項目	記載する事項等
<p>1 現況建物の概要</p> <p>1-1 建物概要</p> <p>1-2 使用材料</p> <p>1-3 設計図書の有無</p> <p>1-4 配置図・平面図・立面図</p> <p>2 現地調査結果の概要</p> <p>2-1 建物外観状況</p> <p>2-2 柱脚の状況</p> <p>2-3 柱梁接合部の状況</p> <p>2-4 ブレース接合部の状況</p> <p>2-5 その他</p> <p>3 現況建物の耐震診断</p> <p>3-1 診断方針とモデル化</p> <p>3-2 診断結果</p> <p>3-3 診断結果に対する所見</p> <p>3-4 柱軸力と層重量の計算</p> <p>3-5 保有水平耐力の算定</p> <p>3-6 屋根床版の検討</p> <p>(1) 屋根床版の応力計算</p> <p>(2) 屋根床版のIs値計算</p> <p>(3) ゾーニングIs値計算</p> <p>(4) 接合部詳細等の検討</p> <p>4 耐震改修</p> <p>4-1 補強の方針</p> <p>4-2 補強位置図</p> <p>4-3 補強後の耐震性能</p> <p>4-4 補強結果に対する所見</p> <p>4-5 保有水平耐力の算定</p> <p>4-6 補強詳細図</p> <p>4-7 施工時の留意点</p> <p>5 その他 図面集</p> <p>既存図面</p> <p>現地調査結果の報告書</p> <p>電算資料</p>	<p>調査写真の位置を図面上に明記すること</p> <p>構造部材の錆び、ブレースの変形、不同沈下、全体の傾斜、など</p> <p>写真と詳細寸法図</p> <p>写真と詳細寸法図</p> <p>写真と詳細寸法図</p> <p>診断方針、仮定条件、モデル化、仮定荷重</p> <p>X, Y方向ともに下記の内容を記載</p> <p>層せん断力分布係数<math>A_i</math>の算定</p> <p>部材の終局耐力の算定</p> <p>靱性指標<math>F</math>、構造耐震指標<math>I_s</math>、保有水平耐力に係る指標<math>\alpha</math>の算定</p> <p>「学校体育館の耐震診断基本方針2003版」に準拠</p> <p>(1)の結果、屋根床版が危険とされた時</p> <p>補強後建物の耐震診断結果と所見</p> <p>補強部材の詳細図、仕様書等</p> <p>耐震診断のものと耐震改修計画のものは分ける</p>